

都心における子どもの遊び環境に関する研究

—福岡市中央区K小学校区における調査事例（その1）—

○瀬渡章子* 安恒万記** 田中智子* 梶木典子*³（*奈良女大，**筑紫女学園短大，*³奈良女大・院）

【目的】商業・業務機能の一層の集積および住宅の高層化が進行する都心地区においては、子どもが屋外で遊べる空間はますます限られ、また空間があったとしても交通事故や犯罪など様々な危険をはらむ場所となってきている。都心への種々の機能の集積は、子どものいない世帯を引きつけもするが、また一方では子どもを持ちながら都心居住を選択する世帯も多くみられる。これらの世帯にとって、子どもの成長に欠かせない遊びをどのように保障していくかは重要な課題である。そこで、本研究は都心に居住する小学生の遊び環境の実態を明らかにし、望ましい遊び環境の要件を明らかにすることを目的としている。

【方法】福岡市中央区にあるK小学校の児童の保護者を対象に質問紙調査を実施した。全校の児童数は411人。1世帯1票の配布とし、世帯ごとに年少児に関して回答を求めた。調査時期は1997年12月で、配布数328票、回収数78%である。

【結果】回答世帯は、集合住宅居住が85%をしめ、半数以上は高層住宅である。共働き率が高く、通勤時間は短い。子どもの放課後の遊び方では、住宅内で1人または2、3人の同学年の友人とTVゲームをするものが多い。地域の遊び環境にたいしては、周辺道路の車の多さや自然のままの遊び場の不足にたいする不満が強く、それにたいしてできるだけ屋外で遊ばる、スポーツクラブに通わせるなど、家庭での配慮がみられた。